

2. Genetics/Breeding

データ閲覧・コメント入力可能期間：2021年3月28日0時～4月3日24時（予定）

[P2-10]黒毛和種繁殖雌牛の生涯当たりの利益関数作成の試み

○Suguru Kitajima¹, Shinichiro Ogawa², Hayato Saito³, Yoshinobu Uemoto², Masahiro Satoh² (1.Faculty of Agriculture, Tohoku Univ., 2.Graduate School of Agricultural Science, Tohoku Univ., 3.Livestock Industry Division, Agriculture Department, Miyagi Prefectural Government)

【目的】黒毛和種では、繁殖雌牛における初産月齢（AFC）の早期化および分娩間隔（CI）の短縮等による生涯生産性の向上が推進されている。本研究では、繁殖雌牛の生涯利益を表現する関数の作成を試みた。【方法】繁殖雌牛の生涯利益として、①種付け時点から肥育素牛の子牛市場出荷（約10か月齢）までと②肥育素牛の導入時点からと殺（約30か月齢）までの2行程における収入（R）と支出（C）の差に着目した。Rは子牛生産頭数、と殺頭数、子牛価格、枝肉単価（CUP）、枝肉重量（CW）等を、Cは子牛生産頭数、と殺頭数、子牛価格等を含む関数とした。子牛生産頭数およびと殺頭数は、繁殖雌牛の生産寿命、AFCおよび平均CIの関数とした。2001年から2014年の間に枝肉市場へ出荷された肥育牛38,192頭のデータを用いて、CUPを目的変数、CW、ロース芯面積およびBMSナンバー（BMS）の1次項を説明変数とした重回帰式を作成し、利益関数に含まれるCUPと置換した。【結果】CUPに関する重回帰式では、BMSの寄与率が最も高かった。作成された利益関数は、分母が平均CI、分子がCWの2次項とその他の変数の1次項で表されたことから、CIが短い、またはCWが大きいほど改良した際の利益の変動が大きいと考えられた。